

千年サンゴのふるさと 大島



これが千年サンゴ！

高さ：約9m／外周：約30m

牟岐大島内湾に生息する巨大なコブハマサンゴは、「千年サンゴ」の愛称で呼ばれ、水深23mの海底に根を張り、クリスマスツリーのような格好でたっています。その高さは、約9m、外周約30m、年齢は1,000年をはるかに越えると推定されており、日本最大級、最長寿の可能性があります。

コブハマサンゴは、造礁サンゴの種類で、塊状で丸いドーム型に成長することが多いのですが、千年サンゴは、クリスマスツリー形のめずらしい形に成長しています。



サンゴは生きもの？

サンゴは動物です。クラゲやイソギンチャクと同じ仲間、刺胞動物(口があって肛門がない袋状の体制)とよばれています。

サンゴの体は、「ポリプ」と呼ばれ、イソギンチャクと似た体のつくりをしています。ポリプがたくさん集まって全体をつくっています。

ポリプの体内に褐虫藻といわれる単細胞藻類を共生させ、サンゴに光合成産物を分け与えています。

サンゴはどんなところにすんでいるの？

水深30mぐらいまでの浅い海にすんでいます。

親戚関係の宝石サンゴとの違いは？

宝石として珍重されている宝石サンゴは、褐虫藻と共生せず、水深100mを超える深い海にすんでいます。

大島周辺の海の中ってこんなところ！

大島のある海部沿岸では、黒潮由来の暖かい水が高知県の室戸岬や和歌山県の紀伊半島側から流入します。

また、吉野川や那賀川などの大規模河川がつながる紀伊水道から、栄養分の豊かな水が流れ出てきます。

海潮流、水温、島という条件が重なることにより豊かな海となっており、「四国のガラパゴス」とも言えます。

千年サンゴをはじめ、サンゴ全般は、小さな生物や幼魚の住み家となっており、様々な生態系をつくっています。



牟岐大島内湾



キンギョハナダイ、ソラスズメダイ



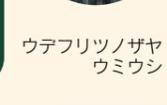
カゴカキダイ



ツノダシ



アオウミガメ



ウデフリツノサヤウミウシ



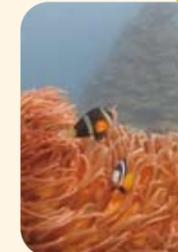
イサキ



ハナミノカサゴ



ニタリ



クマノミ

ダイビングのお問い合わせ

クラブノアむぎ
〒775-0005 徳島県海部郡
牟岐町灘下浜辺198-1
TEL:0884-74-0100

大島周辺で見られるサンゴの種類

◀イボヤギ

▼ハナガササンゴ属

▼オオハナガタサンゴ

▼エンタクミドリイシ

▼スリバチサンゴ



おすすめのダイビングポイント

潜ると、海に棲む生き物たちに出会えます。

大島内湾 大島の湾内ポイント。波や流れがなく、安心して潜ることができます。この見所は、やはり、「千年サンゴ」。高さが約9mにも及ぶその迫力は必見です。湾内に生息する他のサンゴの種類も多く確認できます。

ビシャゴ 大島の湾内ポイント。湾の外側では潮のあたりがよく、魚影が濃い。湾の中心では水深が30mまでとれ棚ごしにハードコーラルやソフトコーラルなどが群生しています。シーズンでは、回遊魚や季節来遊魚が多く楽しめます。

ムギオトシ 潮通しが良く、牟岐でも一番魚影が濃いポイント。ムギオトシの南側は水深が30m前後まで落ち込み砂地が広がり、時期では大型魚のクエやエイなどが確認できます。

